



【最高に輝ける場所】

「twinkle」さんは、活動の中で「輝ける場所」としてファッションショーに出演されていますよね。実際にチームとして「輝いている」と実感するのはどんな瞬間ですか？

「ステージの上から観客席・会場の景色を見る瞬間ですね。特に、衣装に照明が当たってより綺麗に見える瞬間は見る側としても非常に印象深いと思います。ファッションショーは、衣装制作やモデル演出などをチームみんなで協力して完成する一つの作品です。」

「ぜひとも実際に会場で見たいです。ステージに立つのはかなり貴重な経験だと思うのですが、初めて出演された時はどんなお気持ちでしたか？」

「もちろん、大緊張でした！会場が綺麗だとか、お客さんの温かい視線を感じる余裕も無く、慣れないハイヒールを履いてステージを歩くのはとても大変で、「絶対に転ばないようにしよう」とばかり考えていたことが印象に残っています。」

「やっぱり緊張しますよね。そんな不安もある中で、どんな想いでステージに立たれていましたか？」

「ついに辿りついた本番への高揚感と、時には徹夜もして衣装制作に数か月費やしたのが、数分でステージが終わってしまうことに対する複雑な気持ちがありました。それでも、「ここまで頑張ってきたものを最高の形で届けたい」という強い想いで立っていたと思います。」

「素敵な想いですね。それでは、チームとしてはもちろん、個人として「輝いている」と感じられたのはどんな瞬間ですか？」

「チームメンバー一人ひとりが、「自分が一番輝きたい」と強い向上心と確固たるプライドを持っているんです。」

「ですが本番では、個人プレーではなく全員で作った「衣装の魅力」を伝えることが一番大切だと思っています。「衣装が素敵だった」、「世界観に引き込まれた」と褒めていただけた時には、これまでの努力が実ったことを実感しました。」

「チームとしての一体感を大切にされているのが伝わってきます。」

【「光」を届けるために】

「add.sさんのコンセプトである「きのうよりも、おもしろい、きょうを。」が全て平仮名表記なのが気に入りました。こういった意味が込められていますか？」

「add.sさんのコンセプトである「きのうよりも、おもしろい、きょうを。」が全て平仮名表記なのが気に入りました。こういった意味が込められていますか？」

「意見の食い違いやメンバー間の衝突はどのようにして乗り越えられていますか？」

「一度冷静になることですね。メンバー間で話し合って納得のいくものが完成したと考えていても、一週間後に改めて見ると六だらけだった。だからこそ、一度リセットして話し合うことで結果的に良い方向に進んでいく気がします。」

「衝突をプラスに捉えて、チーム全体の完成度を高めていくのですね。成果物からは見えない「影」の部分にこそ、それまでに紡いできた軌跡が見えますね。」

【「光」を追いかける人々】

「最後に、今後の展望をお伺いしたいと思います。」

「夏のファッションショーに向けて、自分と向き合いながらもチームとしての一体感を大切にしていきたいです。足を運んでくれた方々に、私たちの伝えたいメッセージが少しでも多く伝わるよう制作に励みたいと考えています。」

「読むたび覚える」をモットーにクイズ形式にしたこともありました。

「京都の「循環フェス」でも広告を打ち出したとお伺いしましたが、大学生の来場者数を増やすための工夫として、どのような施策を行いましたか？」

「そうですね。「循環フェス」に行くという紙の広告を大学生に回してもらって、最後に何人に回ったかのコードで確認できるようにしていました。」

「面白いアイデアですね。幅広くご活躍されているからこそ、柔軟な発想が生まれるのだと思います。」

【光と影】

「今回は3団体とも学生団体ということで、チームで活動する中で経験された苦労や地道な努力などの「影」の部分をお聞きしたいです。」

「やはり、衣装のデザイン画を全部描き直したのはいい思い出ですね。顧問やチームリーダーの指摘を受けて徹夜で描きあげたことがあり……（笑）。それでも学校の先生方が夜遅くまで活動場所を確保してくださるなど、全面的に協力していただきました。」

「そんな苦労があったんですね。本当に華やかでこだわりの感じられる衣装が魅力的だと感じました。」

ファッションショー全体の大テーマをもとに、チームごとにコンセプトを設定して衣装を自主制作されているんですね。一から衣装を制作されているとお伺いして驚きました。

「胸の内に秘めたメッセージを言葉で表現する代わりに衣装制作に込めて観客の皆さんに伝えることを大切にしています。」

「add.sさんはいかがでしたでしょうか。私たちと同じフリーペーパーを制作される中で、特に難しいと感じたことをお聞きしたいです。」

「フリーペーパーの中でも、特に「アイキチ」の締切はかなり細かいです。スケジュールを後ろ倒しにはできないので、担当者が何度もリマインドしています。」

「そうだったんですね。我々としても「take free」の形をとっているからこそ直接読み手に届けられる機会が少ないと感じているのですが、add.sさんはどんな時に「思いが届いた」と感じられますか？」

「機会は確かに少ないですが、お渡し会で直接「また読みたい」と言われた時のやりがいは格別ですね。」

「直接受け取る感想は何事にも代えがたいですね。add.sさんはマーケティングの大会にも出場されていますよね。チーム



「実は一つの言葉に二つの意味を掛けています。どの部分だと思えますか？」

「もしかして、「京都」と「今日」ですか？」

「まさにその通りです。新しいものを京都でどんな生み出していくという前向きな想いが込められたコンセプトフレーズです。」

「実際に様々な素晴らしい広告を制作されていますが、読み手の目を引く広告を作るためにどんな工夫をされていますか？」

「基本的にはパッと目を引くようなインパクトのあるデザインにすることを心がけています。」

「個人的な話にはなりますが、私は会長を任命される前まで、社交的な性格ではなかったんです。しかし、広告研究会での活動を通じて志の高い方や、面白い仲間たちに出会えました。これからは、人生の恵みとなる出会いが溢れる場所としてさらに多くの人にここで活動してもらえたらと思います。」

「本日はお忙しい中誠にありがとうございました。皆様のこれからの活躍をお祈りしております。」

「光り続ける人のそばには、きっと誰かがいる。」

